

オープン市場短信 (2014年8月)

2014. 8. 8

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP（短期社債）月末残高は、5か月ぶりに15兆円台となった（15兆3414億円、前月比+1兆3534億円、前年同月比△3435億円）。四半期末明けで、一般事法はCPによる資金調達需要が強まり、前月比1兆4477億円の大幅増加となった。鉄鋼大手2社が6月末の残高ゼロから6600億円の復活発行を行ったことや、電気機器・商社等の発行が目立っていた。金融機関も前月比約2300億円の増加、前月6兆円台となったその他金融は小幅減少した。

発行レートの動きについては、9月末期日物や発行頻度の高い銘柄を除き、最上位格付け銘柄では0.07%台前半から0.08%台半ばでの出合いで横這い推移。一般銘柄（1格）については0.08%台後半から0.09%台後半での出合いで、発行増に伴い各銘柄ともに若干上昇地合いとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）出合いなし。一般事業法人（a-1格）0.0900%～0.1188%。
その他金融銘柄（a-1格）0.0885%～0.1680%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	7月末残高	6月末残高	増減
一般事法	46,616	32,139	14,477
その他金融	59,653	60,403	▲750
金融機関	31,786	29,470	2,316
（政府系金融	0	0	0）
（銀行等	13,711	12,906	805）
（証券	18,075	16,564	1,511）
ABCP	15,359	17,868	▲2,509
計	153,414	139,880	13,534

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

7月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0750% ~ 0.0920%	0.0745% ~ 0.0918%	—— ~ ——
a-1 (一般事法)	0.0875% ~ 0.1080%	0.0899% ~ 0.1098%	0.0900% ~ 0.1188%
a-1+(リース銘柄)	0.0800% ~ 0.0930%	0.0845% ~ ——	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0940% ~ 0.1000%	0.0950% ~ 0.1630%	0.0885% ~ 0.1680%
a-2	0.0950% ~ ケ0.25%	0.0950% ~ ケ0.30%	0.1000% ~ ケ0.35%

《CPオペ》

CP買入オペは、4日・16日・25日と3回実行され、各回4000億円にてオフア
ーされた。

4日・16日のオペでは、応札可能銘柄も多くディーラーの売却ニーズが強まり、
按分・平均落札レート共に連続して上昇した。25日のオペでは、応札可能銘柄
が限定され按分・平均落札レート共に低下する動きとなったが、現先レートの
高止まりもあって低下幅は小さかった。

【月末オペ残高：2兆1980億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月4日	7月9日	4,000	10,111	3,989	0.085%	0.087%	10.5%
7月16日	7月22日	4,000	9,563	3,335	0.090%	0.092%	53.5%
7月25日	7月30日	4,000	8,205	3,876	0.088%	0.091%	75.4%

《ABC P》

ABC Pの月末残は、四半期末決算明けの影響もあって2509億円の減少とな
り、過去最低水準の1兆5329億円であった。前年同月では約2213億円の減少とな
っている。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、7月末時点における発行登録企業数は、発行登録
企業数は増減なく、493社であった。通算の発行企業数も動きなく、536社であ
った。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、月初0.09%割れでの出会いとなっていたが、中旬以降

レポレートの上昇地合いを受け、0.09%前後～0.09%台後半での出会いとなった。

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP償還額は約2兆7900億円で、前年同月の償還額（約3兆2200億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、お盆休みもあって発行はさほど膨らまないとわれ、取引閑散が予想される。また、中間決算を見据えて、9月末までのショートターム物の発行を行う企業が多くなるために、このタームでの発行レートは0.09%台半ば～0.12%台前半での上昇地合いが予想される。

3M物の発行レートは、最上位銘柄については0.07%台前半から0.080%台半ばでの出会いを予想する。また、一般銘柄では、0.090%前後～0.11%台後半を予想。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.09%台前半～0.150%台を予想する。

《CPオペ》

今月は、5日（実施済）・18日・25日と、計3回の入札が何れもオファー額4500億円にて実施される予定（7月は、計3回：各回4000億円実施）。

5日のオペは、前回オペと比べ按分レート・平均レート共に上昇した。足元現先レートが0.09%前後と高含み推移となっていたことや、応札可能銘柄がやや多かったことが要因として考えられる。次回以降については、足元現先レートと応札可能銘柄如何によるが、新規発行が少ないと予想されることや応札額が増額されていることも有り、横這いから低下地合いとなるのではないかと。

月末オペ残高は、2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

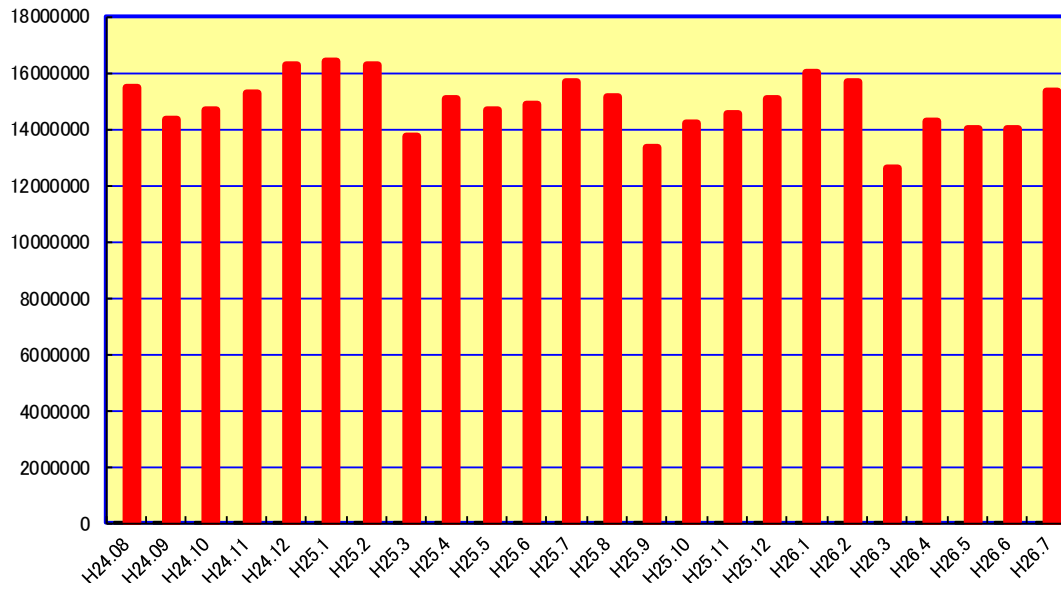
S/N物のレポレートは、0.06%台～0.09%台後半でのワイドレンジを予想する。インターバンクレートは、引き続き変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移であろう。CP現先レートはレポレートの動きに影響を受け、今月も同様な動きを取るようになるだろう。先月同様、0.08%台半ば～0.09%台後半での出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（24年8月～26年7月）

発行登録企業：493社（発行実績あり536社）

（過去2年間の残高を表示）



7月末発行残高ベスト20

7月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	826,600	823,800
2	三菱UFJリース	776,900	753,200
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	621,000	603,000
4	東京センチュリーリース	611,500	625,200
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	469,650	500,390
7	JXホールディングス	443,000	454,000
8	みずほ証券	417,100	355,800
9	新日鐵住金	409,000	0
10	三井住友信託銀行	399,200	319,700
11	興銀リース	333,300	331,000
12	JA三井リース	332,000	335,000
13	SMBC日興証券	312,000	293,000
14	芙蓉総合リース	311,700	300,700
15	エイペックス・ファンディング	262,810	279,810
16	ジェイエフイーホールディングス	250,000	0
17	東 芝	241,000	115,000
18	大和証券	218,260	196,080
19	アルカディア・ファンディング	214,940	226,640
20	オリックス	203,200	186,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会